

# リベルテール

11  
12月号



Libertaire Vol. VIII. No.12

無政府主義誌

昭和52年11月15日発行第三種郵便物認可  
リベルテール定価一〇〇円(郵便料共)

大杉栄主幹・労働運動・第1次～第4次 再版上製	10,000円	何が私をこうさせたか 金子ふみ子獄中手記決定版	2,400円
純正無政府主義 農村社会革命講座八太舟三著	150円	解説：瀬戸内晴美 金子ふみ子歌集	500円
階級闘争説の誤謬 八太舟三著	130円	権藤成郷著作集2 農村自教論・日本農制史談	3,000円
無政府共産主義 -人類解放の道- 八太舟三著	700円	大杉栄秘録 増補 堀保子ほか19氏著	1,100円
無政府主義組織論 マラテスタ著	150円	無政府主義論 エンリコ・マラテスタ著	300円
選挙戦に際して -付略伝- マラテスタ著	150円	ディナミック 石川三四郎個人紙復刻版	3,000円
農民の中へ マラテスタ著	200円	アナキスト革命 ジョージ・バレット著	150円
マフノの農民運動 石川三四郎著	150円	西洋社会主義運動史 石川三四郎著	1,000円
ベルテロー著/山鹿泰治訳		ロシア革命の批判 Aベルクマン著	200円
平民の鐘 -無政府の福音-	150円	黒色青年 黒色青年連盟機関紙 大正15年	2,500円
無政府主義者は答える 岩佐作太郎著	150円	創刊号より昭和6年終刊号まで復刻	
石川三四郎ほか三氏著		黒色戦線 アナキズム文芸思想誌 第1次	5,000円
日本無政府主義運動史 第一編	350円	昭和4年創刊号より終刊号まで復刻	
叛逆者の牢獄手記 大杉・朴烈ら十二氏著	200円	労働運動第5次昭和2年復刊号より終刊号復刻	
獄窓から 増補決定版 和田久太郎著	800円	差別とアナキズム・水平社運動と	
死刑囚の思い出 増補決定版 古田次郎著	700円	アナ・ボル抗争史 宮崎晃著	1,600円
一一・二皇居発煙筒事件訴訟記録-		君民共治論 権藤成郷著作集第3巻	3,000円
天皇制破壊への激動 増補版 塩谷雄高氏の天皇批判の証言収録・付大島英三郎自伝資料	800円	無支配への道 マラテスタ著作集1	300円
雑誌労働運動(大正13年3月号発禁を復刻)		アナキズムのABC ベルクマン著	150円
大杉栄・伊藤野枝追悼号	400円	古事記神話の新研究 石川三四郎選集1	2,500円
漫文・漫稿 大杉栄・望月桂共著	1,000円	<解説・石川三四郎論 大沢正道>	
自治民権(全)再版 権藤成郷著作集 第一巻	4,500円	自治民政理・訓詁南洲書 権藤成郷著作集4	4,500円
正義と道徳 クロボトキン著麻生義訳	250円	自伝(一自由人の放浪記 浪)石川三四郎選集7	5,000円
龍波大助大逆事件 虎ノ門で現天皇を狙撃	1,000円	金子文子・朴烈大逆事件裁判記録・参考資料	12,000円
弁証法的唯物史観の批評 石川三四郎著	150円		
無政府主義とサンジカリズム 石川三四郎著	150円		
進化と革命 補正版 付石川書簡集			
ルクリュ著 石川三四郎訳	150円		

■ リベルテール

■ 1977年11月15日発行 Vol., VIII No.12

■ 編集兼発行者 三浦精一

■ 発行所 東京都練馬区大泉学園町2190

萩原晋太郎方 リベルテールの会

非暴力の風景

ときとしておもいもかけぬことばが流行するものである。生ささま、したたかななどがそうであり、かつては純正も学術的な流行語として学際的（これも流行語に数えられなくはない）に使用されていたフシがある。風景も最近よく使われているようだ。論、研究、原則などよりははるかにとつきやすく、わかりやすい気がするためであろうか。

縁あって数か月担当した海外だよりのために海外の紙誌を見ていたときに気づいたことの一つに、暴力論も非暴力論もほとんど見あたらないということである。商業新聞をにぎわしているテロリストと称されるグループについての記事は、シンバイオニズ・ヒステリーがアメリカにあると同じく、パーダー・マインホフ・ヒステリーがドイツにある、というのがある程度で、詳しく論じたものはない。奥歯にものはさまったような心情的な共感をよせるものもなければ、泳がせ論もない。西独赤軍、IRA、ツパマロスについてはうすいパンフレットがあるが、入手してないのでなんともいえない。定期刊行物から判断するかぎりでは黙殺しているようだ。逆に非暴力に関する論議もない。これまたパンフレットはかなりあるし、特に先日、非暴力の歴史を通観した『民衆の力』という部あつい書物が刊行されたことは注目した。

暴力と非暴力に関する論文がもつともにきわまっているのは日本語であろう。トルストイズムに代表されるような外国の非暴力と日本のそれとはやや趣を異にしているような気がする。外国の場合はきわめて単純なものだが、日本のそれは難解なものがある。本質と現象という有名な二分法を導入し、これに権力論と国家論をからませ、マニ教的な価値判断を加えると、とてつもなく晦澁な理論ができていく。自分でも使いこなせない国際語を發明した人がいたそうだが、一脈相通するものがありはすまいか。法哲学においては抵抗権は解きえぬ永遠のナゾとされているのである。非暴力も理論の精緻化を誇りはじめるや、解きえぬナゾとなりかねないように思う。前述した『民衆の力』で非暴力にどのような理論と行動が歴史的に存在していたか、教えてくれることを期待している。非暴力の風景——そこで展開されている非暴力はきわめて単純かつ平易なものである。

(梅田順子)



千羽鶴の中にすくまえる山鹿泰治の頭骨

目次

非暴力の風景	梅田順子	1
三好伊平次のこと	柏木隆法	2
再び無政府という訳語について		
または土田杏村のこと	若山健二	4
尋ね人ーフランク・ゴールド君		8
一波万波		
(山鹿みか、清水修一、中沢輝さんより)		8
海外だよりの(莫空人編)		9
リベルテールの定価改定について	志麻達夫	13
中国無政府主義試論(8)		14
Three events in Japan	by Augustin S. Miura	
To members of the Tokyo "Libertaire"	by Ken Knabb	
A reply to a situationist	by Y. Hashimoto	
A message from a walker	by Fu Mizuta (Miss)	

(表紙絵は三塚隆法、久木使里、俊吾同製から転載)

## 三好伊平次のこと

柏木隆法

私が大逆事件に連座して死刑となった曹洞宗僧侶内山愚童に興味を持って追跡調査を始めては四年になる。その間、何の目新しい事実に行きあたらないまま、明治三十七年から四十二年五月までの愚童の行動を神崎清氏、荒畑寒村氏、森長英三郎氏、大島英三郎氏などの諸先輩に助けられながら愚童の秘密出版物『無政府共産』が果たした歴史的役割について私なりの考察と見解を『無政府主義研究』で発表しておいたが、それに先だつて『遺言』第五号に『無政府共産』の出所についてふれておいた。

ところが『遺言』が発刊されて間もなく、『岡山県社会運動史』②の『明治社会主義運動』に私の最も注目している『三好伊平次』についての詳述が発表されていることがわかつたので本書の紹介をおきたいと思う。

三好の名が初期社会主義運動に初めて登場するのは、山口孤剣、小田頼三による社会主義伝道商行商隊の日記（『週間平民新聞』第四七号掲載「岡山より」）からである。一行は東京を出発して約八十日目の十二月二十五

日に藤野村の三好を訪れている。三好は「所謂新平民部落に生れた人で同族が被る圧制と酷虐を憤り、新平民覚醒の爲め各地に遊説し、先年主唱して大阪に新平民大会を開き、現今は自分の宅に新聞雑誌縦覧所をこしらへて読書力を養はせてゐること」と『平民新聞』は伝えている。

三好は明治六年、和気郡藤野村の地主の家に生れた。彼はずばぬけて頭が良かったにもかかわらず、部落民であるために冷たい差別を味わいながら成長した。一時期、自由民権運動にも参加したという。社会的不平等の苦汁をいやというほど味わつた三好は、県下の被差別部落民とともに、明治三十五年、全国に先だつて「備作平民会」を設立し、さらに翌三十六年七月、備作平民会第二回総会には全国の未解放部落の代表をつつて「大日本同胞融和会」の創立までいたつた。

しかし、よく知られるように部落解放の荆冠旗を掲げた「水平社」（大正十一年創立）とは対照をなす運動だけに、三好の存在は大日本帝国の終焉とともに部落融和運動にかけた功績は忘れ去られてしまつた。

三好はこうした「体制側」の運動に挺身する傍ら、幸徳秋水らの『平民新聞』の購読者となり、森近運平、鷲尾敬導らの『いろは倶楽部』にも参加している。当時、

森近は岡山県庁内務部の下級官吏であつた。彼もまた幸徳・堺の社会主義運動に共鳴し、監獄の教誨師だつた鷲尾と『いろは倶楽部』を創立して岡山における非戦平和の運動を展開した。

間もなく森近は大阪平民社の創立に際し、大阪へ去つた。さまざま迂余曲折を経て、上京した森近は幸徳らと再び社会主義運動を続けていた。しかし、赤旗事件が起る、在京の同志が根こそぎ獄中へ投じられると、箱根の怪僧内山愚童は事件の報復手段として秘密出版の計画を持ちこんできた。このとき、既に『パンの略取』の訳稿の出版を企画していた幸徳秋水は危険の多い行動を自重するあまり、この協力をつっぱねた。そこへ、哀れと思つたのか、人の好い森近は『平民新聞』の購読者名簿を持つてきて、全国の主だつた同志をリスト・アップし、愚童に教えた。この好意はのちに大逆事件の大きな原因の一つとなる。

愚童の秘密出版第一号『無政府共産』の全国の同志の反応はほとんどなかつた。だが唯一人、愛知県亀崎の労働者宮下太吉の許に届いたとき、敢然として天皇神格の否定を爆裂弾をもって証明しようとしたことは、神崎氏の『革命伝説』に詳しい。

大逆事件のフレイム・アップ捜査が全国の社会主義運

動の鎮圧へと波及したとき、当然愚童の秘密出版物の行方は不敬罪の口実となつた。しかし『無政府共産』はその前にこの小冊子がいかに危険なものであるかを察知していた受取側によつて大半を処分されていた。執拗な捜査の手は、残るわずかな部数の回数にそがれた。このことにより大逆事件と並行して検挙された不敬罪は十名に適用され、その中の五名は『無政府共産』の所持していた理由で禁錮五年に処せられた。

今日、小松隆二氏が所蔵される『無政府共産』の現物はこうした捜査の網目をのがれた貴重な資料の一つである。そのいきさつは『遺言』第五号に拙稿を掲げたが、その後、森長英三郎氏より若干の教示を受けたのでこの紙面を借りて訂正しておきたい。

私は三好に秘密出版物を渡した人物を森近運平、武田九平と仮定したが、森近は秘密出版そのものに賛成していない。また武田の赤旗堂大阪平民社の当時には三好は岡山にあり、秘密出版の時期と一致しないことから、武田では当然ありえない、では誰が……ということになるのだが、森長氏は愚童自身が送つたと指摘される。

『明治社会主義運動』は、愚童については一言もふれていないが、森近が三好を高くかつていたという記述からみても同郷の三好を指導者クラスの人物として推挙し

たともて間違いはないであろう。

のち三好は大正七年の米騒動以後、内務省に勤め、官許の部落融和運動の中で、実に四十年の長期にわたって部落差別対策に挺身した。三好にとって平民社を中心とする社会主義運動は、ついに彼自身のものとはならなかった。山路愛山のように初めから国会社会主義を目ざすものではなく、当時の標準的な日本人の多くがそうであったように皇室を中心とする歴史観があるかぎり、資本の呪縛や階級構造の認識は内から湧いてこなかったとみるべきであろう。

彼の業績は史家の眼からみても徒勞に終ったことは動かしがたいが、本書は三好の認識の甘さを批判しつつも、その好感のもてる人柄については「限界を持ちながらもときの流れのなかで一定の役割を果たした人として、忘れてはならない存在」として評価している。

水野秋著『明治社会主義運動』・東京都文京区小石川一―六―二一、労働教育センター刊、二、二〇〇円



## 再び無政府という訳語について または土田杏村のこと

若山健二

これは本誌一月号の「無政府という訳語について」のつづきである。

『日本国語大辞典』（小学館）によると、「無政府」は矢野竜溪『経国美談』後篇第四回に、「無政府党」は『改正増補和英語林集成』にあることが指摘されている。前者は明治一七年刊で、少なくとも二度は無政府が使用されているもの、いずれもアナキズムとは関係ない。後者はへボン編集の明治一九年刊で英和と和英が合本であつて、英和の部でアナキーに混乱、騒乱、無政府、乱れとあり、和英の部で無政府にアナキー、ウィザウト・ガバメント、無政府にアナキスト、虚無党にニヒリストとある。本書は『和英語林集』（二版、明治五年）の三版で（初版は慶応二年。但し未見）、二版によると、アナキーには混乱、騒乱、政治なし、乱れとあり、和英の部に無政府はない。これ以前の明治二年、四年の別

の編者による各辞書には無政府という単語はない。

虚無党文学のひとつ、宮崎夢柳『鬼政』（明治一八年）は虚無党、社会主義という用辞とともに無政府党が二度使用されており、これはまちがひなくアナキズム（またはアナキスト）を意味する。一例をあげると、クロポトキンを紹介したところで、「所謂無政府党なる最も過激の思想」とある。

上掲のへボン編の辞書の二版と三版の訳語の組み換え、宮崎著の「所謂」という修辭からして、明治十年代の後半にはかなり無政府という訳語が使用されていたと推測できないであろうか。右の二書は刊行がそれぞれ明治一八、一九年であるから、原稿執筆は当然それ以前、おそらく、アナキーに無政府という訳語が一般化しはじめた頃であろう。特にあの大部なへボン編の辞書の訳語の一つを訂正するのだからいっそうその感が深い。

右の考証をもとに、一月号では「無政党」（明治一九年）という訳語は「虚無」から「無政府」へ移行する中間の訳語であるとしたが、これは無政府党という訳語を避けたドレイの言葉であろうと推測を訂正しておく。察するに、くだんの筆者は無政府という訳語を知つてはいたのではあるけれども、無政府という訳語を使用することから生ずる弾圧のおそれを配慮したためと思われる。

もう一つ訂正しておく、一月号では最初の社会主義の使用例を明治二年としたが、これは明治一二年の誤記である。住谷氏の著書にあげられている書物で見ることのできないものが相当にあり、それらのなかに無政府という使用例があるかもしれない。

本誌に連載中の志麻氏の論文から中国語でもアナキズムと無政府主義が併用されていることがわかる。日本語の無政府主義と中国語の無政府主義とはいずれかで先に成立し、他方へ転用されたものではないだろうか。それとも偶然別々につくられたものであるうか。もし中国で先につくられ、それが日本語へ移されたとするなら、今度は誰がそれを実行したのが問題となり、ゼロから新しく出発する考証を必要とする。

### 二

一月号の前稿で、私は無政府という訳語に賛同できないとした。いうまでもなく、これは私の創見ではないし、内村剛介氏も無政府主義という訳語を「杜撰な訳語」とされているが、あのかき私の頭のなかにあつたのは内村氏その他ではなく、土田杏村であつた。杏村によると、「アナキズムを無政府主義と訳すことは適当でなく、これがために無政府主義は危険極まりないもののように

見られたが、真義は寧ろ道義的のものである」(全集、第三卷、二〇五頁)ということになる。

土田杏村の名前から連想されるのはまことに多方面にわたる著述活動であり、最近では自由大学と結びつけて連想されるかもしれない。おそらくその最大の業績は文学や哲学の領域であろう。しかし社会思想に関してだけでも無視されるべきではない。そのなかには抄訳しただけで自分の著述であるようにしたものも見つけられるが、アナキズムに限っていうなら、まず指を屈するのはゴドウィン紹介である。日本のアナキズム史を西欧アナキズムの輸入の歴史と同一視し、安藤昌益や東洋社会党をかすかな先駆とする幸徳(大逆事件)、大杉、石川の系譜のみに目を奪われると、杏村はせいぜいゴドウィンの最初の体系的な紹介者としての位置しか与えられないであろう。杏村が黒旗の下にいなかつたせいも、それすらも黙殺されていた様子がある。近代日本の権力側が西欧化の道を猛然と突っ走ったのと相呼応し、同じ西欧化陣営のなかで凄惨な内ゲバをくりひろげながら、日本のアナキズム史は上記の三人に代表されるような西欧化の道を猛進したのであるか。日本アナキズム史の概説書ではそのような印象を受けかねないけれども、必ずしもそうとは断言できない一面もあつたようだ。

ていねいに調べたわけではないにせよ、杏村の名前をアナキズム文献のなかに見つけ出すことは、ゴドウィン関係をのぞくと、なかなか困難である。わずかに宮崎晃「差別とアナキズム」が目につく程度で、宮崎氏は杏村をレーニン「国家と革命」のうけ取りとされている。杏村に言及しないこうした傾向に輪をかけてるのは杏村全集(全一五巻)にアナキズム文献がほとんど割愛されていることであろう。ゴドウィン研究しかり、森本厚吉の労働論、たとえば森本の労働の遊戯化という主張を功利主義ときめつけた諸論文のうちのいくつかもわかりである。後者の主題はともすればおちいりがちな発想であつて、「道徳理論や政治理論について著述する者はほとんど功利主義に汚染されている。人間はみな快樂を求め苦痛を避けるのであるから、自分の理論を聴取してもらいたいと思つている人はかならず快苦に論及する」というJ・ブラムナツの言は言い得て妙である。杏村によれば労働の芸術化、遊戯化ではなくて労働の人格化であり、大杉栄「労働運動の精神」のいう人格運動には「全部的の同意を表する」という。労働に対するこうした論点が、杏村をしてアナキズムの「真義は寧ろ道義的のもの」と把握させるのであろう。

しかしながら、全集には「農村問題の社会学的基礎」

が収録されており、この論文(元来は単行書)こそ室伏高信によつて加藤一夫『農本主義(理論篇)』とあわせ、「マルクス主義に対する農民主義を明にしたもので都市的イデオロギーに対する大鉄礎で：この方面の二大収穫」と激賞されたものである。大杉を思想家でなくて翻訳家であるときめつけたのも室伏であつたと思うが、アナキズムの潮流の外にあつた室伏であるだけに、アナキズムと農本主義との類似性に気づいていたのではないだろうか。アナキズムとの関係で杏村を語るなら、農本主義者としての杏村が、同時にアナキズムと農本主義との関係が語られねばなるまい。最近、農本主義文献のリプリントや研究書が次々に刊行されている。その一つによると、クロボトキンの「田園、工場、仕事場」が都市と農村、商工業と農業の調和を論ずるものとして翻案訳出され、ヘンリー・ジョージの著書も明治期の農本主義のなかで訳出されている。それ以降の農本主義にはこういうことはないのではないか。農本主義という日本の土地に播かれた外国からの輸入品であるアナキズムという種子が、天皇制アナキズムという果実をみせたとするならば、農本主義もアナキズムもどこかで歪曲されたのであろう。

農本主義といつてもさまざまの変異があるようだ。な

かにははつきりとアナキズムを否定するものもある。たとえば権藤成卿一派がそうであり、黒色戦線社版の著作集第三巻にくわしい。もつとも、権藤学説にはアナキズムというレッテルもかなりはられており、これまた上掲第三巻にくわしい。土田杏村によると「権藤氏の農村社会論の基礎は、これを要約すればアナキズムであるといつてよからう」(杏村全集、第三巻、三九四頁)となる。また、美術史家の土方定一によるとアナキズムⅡ重農主義(あるいは農本主義)的思想となる。アナキズムと農本主義の関係如何、この論点はほほ処女地に等しいが、収穫不能の荒地なのか、それとも肥沃な土壌なのであろうか。

### 三

大正、昭和の初め、アナキストが農本主義を、農本主義者がアナキズムをどのように評価していたか。農本主義に関心をもちはじめたから日が浅いせいも、今のところ私にはよくわからない。今日の時点において、アナキズム内部(黒色戦線社、岩佐遺稿刊行会など)から権藤、岩佐、萩原などを再評価しようという動きが高まりつつある。また、外国からの輸入品たる外来的アナキズムとは別に、「風土」に根づいていた従来のアナキズムの系

譜を掘りおこし、*「農本主義にからめとられ、ない潮流を採求する松本健一氏などがある。私もまた時間をつくりつつ勉強を進めたいと思っている。そのときの私の立脚点は天皇制アナキズムでもコミュニン・ドグマでもなく、土田杏村と共通する人格主義である。」*

## 尋ね人 ハギシン

イスラム教とキリスト教の抗争をあげた、フリージャーナリストの Frank Gould が、七四年九月からフィリピンのミンダナオ島で行方不明になった。

多分殺されたのではないかと見られている。彼の兄弟から「彼がどんな論説を発表していたのか、コピーがほしい。また、どこでどんな活動をしていたのか、どんな情報でもいいから知らせてくれ」と手紙がきた。

彼は IWW メンバーで八年程前米日し、三浦、はしもと、江川、宋、と私らと語りあったこともあり、近藤憲二を偲ぶ会にも出席した。

ご存知の方は左記に連絡して頂きたす。

Mr. S. M. Gould

8120 Green St. New Orleans,

La. 70118 U.S.A.

に掲載した写真（千羽鶴に囲まれた泰治の頭骨）をいたゞいた。文中大次郎とあるのは長男で南方で戦死された。」

毎月「リベルテール」ありがとうございます。

今月はまだ霜も何度か降り冬將軍の来襲も間近に迫っておりますが昨年、一昨年に比べると今年は今のところ多少暖いようで、お蔭でまだ凍瘡にはなっておりません。例年だと、もうそろそろ始めるところなのですが。

前回、翻訳のお話をしましたが少し経済的にユウがあつたので、七月号の英文の「翻訳願」を出して見ました。一ページで金参千円也でありました。「リベルテール」最近イベリア半島に関する記事が良く出ていますね。私としてもサンジカリズムの問題もふくめて、彼の地には大変興味を持っておりますが、いざれ出所後にも ONTII サンジカリズム批判などをやってみたいと思えます。

今のところ主として「『日本』古代史」の勉強などしており目下「市民講座・日本古代文化入門」というのを読んでおります。それにしても「古代史」というのをかじればかじる程、語学力の貧困を痛感させられておりまして、今日からはマライーインドネシア語の勉強にも手

## 一 波 方 波

いつもリベルテールお送りいただきましてありがとうございます。私は春からひんけつつときどき目まいがします。一人であるく事ができませんので内にはばかりあります。ねたきりでもありませんから御安心下さい。月日のたつのは早いもので今年には主人の七年と大次郎の三十三年になりますので二三年もまえから私が生長らえておつたら主人が病気のときに皆様にいろいろとお世話になりましたから何かきねんになるような物をさしあげたいといろいろと思つていたのですが私の力では思ふようにならずほんとうにおはすかしい事です。私も十月廿八日で八十一才になりました。主人は七十八才でなくなりました。私は五ツ年下ですから三年も長生しています。右の目がいつのまにかみえなくなりました。耳はますますとおくなりまししたし物わすれはするしほんとに困りものです。でもきぶんのよいときは自分の事はできるだけまっていますがつかれますのでよこになつてしまします。

（山鹿みかさんより）

「山鹿泰治夫人みかさんから三浦宛て手紙と今号表紙2

を出す予定であります。出所の晩には「『日本』古代史」

批判などもやってみるつもりです。

西さす天の沼鉾は折れるとも

ではまた。

（函館・清水修一さん）

リベルテール No. 11 拝受、いつも有りありがとうございます。半分硬化しかけた頭脳に新しい空気を吹つけてくれることに感謝をしています。旧い連中の訃報をときどき誌上で報らされることは辛いのですが、今号で武良二氏の文に接して喜びに堪えません。武君とは数年前にちよつと連絡があつたが、その後と絶えていました。安谷君とも同じようですが、往時だけを偲ぶようになっては、もうお終いともいえますね。

みな様の発渾たる御活躍をお祈り致します。

お元気で

（中沢輝夫さん）

## 海外だより

☆11月12日火曜日リベルテールサロンに状況主義の運動者ケン・ナブ君が訪れ、同主義をめぐって討論した。意見

が噛み合わないのは、同君がアナキズムを教条的とみ、われわれが彼の思想をどちらへ行くか、その方向性を問う式に追求したことである。しかし他の誌紙からみると状況主義とは自己を表現し、行動するのを基本とするもので、その体系的なまとまりは思想においても組織についても未完のようだ。フランスではダニエルコンパデイがそうみられていて、後に毛主義者になったじゃないかと問うと、あれは人を引っぱって行くのに懸命で、大きな身振りが多いと批判した。同君は引才、職業は校正、タイプセッティング翻訳（W・ライヒのもの）を仏文から英訳している。だそうで、一泊のついでにみせた本の中では、バクよりフリーエに興味を示した。

☆オーブロード紙秋季号ではマーク・ブラザーズ記名の△アナキーは自由であつて、無秩序ではない▽の論文がある。要旨、

「多くの囚人、フェミニスト、一度は強権的左翼であつた人々が自覚的アナキストになる。これはMLや資本主義を拒否するという否定的経験によるが、またアナキズムこそ積極的な革命的代替と認めるからだ。しかしその多くはすぐAを捨てる。Aは建設的などころがなく、確固とした組織がないからだとするのだ。しかしAは他のソシアリズムに対し確固とした構造をもつ代替が

ある。

ソシアリズムにはリバタリアンソシアリズム（アナキズム）強権的ソシアリズム（マルキストコミンニズム）民主的ソシアリズム（選挙によるソシアルデモクラシー）がある。MLに付いていえば前衛党、民主的中央集権、プロ独裁である。これに対しアナキストさえ気が付いていないのは、触媒グループ、アナキストコンセサス、大衆コミュニケーションの方式だ。

触媒グループとは前衛党の代替で、位階制、権力的指導性、あいまいなリーダーシップに反対するが、能力があり経験のある人がリーダーシップを執り、お互いに知見を交換しあつて、そのグループ内で資質を高め、それが外的には変革への可能性を支援する、つまり触媒の働きをするものである。

アナキストコンセサス：MLの民主的中央集権制では、各メンバーはより高級な▽メンバーに従属し、さようにして中央委員会を構成する。メンバーは要請され命令されて支援したくないプロジェクトでも参加する。そうしなければ中央委から追放だ。

アナキストグループでは提案はメンバーで語り合い（その際誰も他人に権威をふりかささない）同意しない少数者は尊重され、各個人の参加はボランティアである。

アナキストグループは必ずしもルーズに組織される必要はなく、アナキズムそのものが柔軟だから、事情に応じて、あるかないかの組織や厳格な組織があつていいのだ。

大衆コミュニケーション：レーニン党の人びとの日常生活は、現代ブルジョワと同じである。アナキストの組織構造とライフスタイル（生き方）は、解放された未来社会を反映するものである。プロ独裁に代え大衆コミュニケーションを提起する。この社会での意思決定は、そこに住む人すべてによつて行われる故に大衆コミュニケーションなので、少数の鉄の規律でできた人が牽引するいわゆる△プロ▽独裁ではない。Aは特別な理論家の理論に限定されるのではなく、集団的グループの中で各人の創造性を認めあい、その発展をすゝめる。熱狂家である必要はなく、革新を支援し、現状に対応するのは速やかで現実的であるよう、同調者に働きかける。アナキストの最終ゴールである全体的自由解放は理論によつて体系づけられるものではない。しかし、組織、政治的参加、活動などは何らかの悪であると思えず人びとにより反対されるようなものでもない。そうではなくて、それら（理論、組織、政治的参加、活動）は必要なのだ。アナキズムに抵触するのではないのだ。われわれは組織された、同格の国際的運

動を構築し、地球の変革に向け、大衆コミュニケーションを創造しようではないか。（The Open Road No.5887）

☆ギリシアのアナキストが弾圧を受けている。メーデーに参加した八〇〇名のアナキストの内、三〇名が逮捕された。この路上衝突では他にソビエト路戦の青年共産党（数千名）、毛主義者（八〇〇名）、トロツキスト（五〇〇名）が含まれている。以前アナキストは西独のバーダー・マインホフの逃走メンバー、ロルフポールの国外退去に対しキャンペーンを張つて闘つた。また去年反軍デモを組織し、サイプラス島を取ろうとするトルコに反対し△エーゲ海は魚のものだ▽との旗をかかげた。当局は欧州共同市場に入りたく、それには国内の安定ぶりを示したので、今度の弾圧にでたのだ。ギリシアのアナキスト運動は一八六〇年代に遡るが全国組織はなく、基本的には小さな同質のグループから成り立っている。ギリシアのアナキズムはアナルコ・コミンニズムに大勢は向つていて、添え物的に状況主義がある。大勢の活動家は反サンジカリストで、闘う労働者との関係は深くない。現在の活動は大部分が啓蒙（教育的）と宣伝だ。デイエニス・ピリオティケは二〇点の標準的アナキズムを出版し、マプロロード（黒バラ）書店（アテネ）は重要な訪問先と集会所になつている。マプロロードの

共働者シルバ・パドポウロス君は五月二二日の急襲に遭い、殴打され逮捕された。

☆月刊から週刊紙になったル・モンド・リベルテール10月13日号の社説では、バーダー派の弁護士クロース・クロワッサンを確認もなく、フランス政府がドイツ政府の要求した本国送還に応じたのを非難している。「今ではヒトラーが出現したら、どうしよう？」と自問するのが流行である。しかし君達は盲人じゃないのか。ヒトラーは昨日の人で、ドイツ人の独裁者だった。けれど今日では、みんなが共犯者なのだ。それが政府の悪党共だ。ワイマール共和国を殺害したのは誰か？ 政治家の利欲だった。ヒトラーに武器を供給したのは？ 大衆の無関心と無気力だ。ヒトラーがでてきたらどうするんだ？ かつてそれは過去の事だから無駄な質問である。

ドイツのヒトラー化に対し君はどうする？ 〳〵われわれはどうすればいいのだろうか？ と喚び、叫び、声を枯すがいい。だけど、国家という体制を引伸している体制こそ、われわれはどうすればいいのだろうか？ 死刑の廃止を抑圧し、しかも逮捕されただけの人びとをドンパチで暗殺する国家なるものを前にして、われわれはどうすればいいのだろう。ドイツの民衆にとつてもわれわれにとつても、クロース・クロワッサンの本国送還は新しい犯罪を犯すことではないだろうか？」

(Le Monde Liberaire, Oct. 1977 Editorial)

☆イタリアのORIFA (アナキスト国際連合は68年

のカララ大会以来、連絡機関を仕事とし、季刊の会報を出しているが、赤軍派につき三浦宛仏文のプレス・コミニケが来た。

「スタムハイム特別刑務所独房内で、赤軍派の三名、アンドレアス・バーダー、ガンドラン・エンズリン、ジアン・カール・ラスベが殺害されたのは、社会民主主義により代表されるドイツ連邦共和国が、ファシスト組織の用いる同じ抑圧的手段を行使したことになる。

西独の国家権力は全体主義的發展を示し、これは帝国主義者である国際的テロリストの陰謀により強化され、この種の暴力行為がFAR (赤軍派)のメンバーを危機に陥し入れるものでしかないものとなった。

他方、労働運動から分離したこの暴力は、その解放に貢献するところはなく、自殺行為に向うしかないだろう。IFEAは、RAFのマルクス・レーニン主義の行動とイデオロギーを批判する立場であることを確認し、一般のマスメジヤ(ジャーナリズム)がアナキズムと孤立したテログループの間に安易な事実を捏造し、取締条例を強化して、搾取と被抑圧を解放しようとするすべての運動を抑圧すること、就職の禁止、革命運動の禁止、表現の自由の禁止等に抗議する。」

C・R・I・F・A書記

マルグヅッチ・ウンベルト

(莫空人編)

### リベルテールの定価改定について

○ 第八巻第一号(一九七七年12月号)から左の通り定価を改定いたします。

一部定価	二〇〇円(送料共)
半年分	一、〇〇〇円(送料共)
一年分	二、〇〇〇円(送料共)

○ 現在までに払込まれている方たちは、従前通りお送りします。追加払込の必要はありません。次回払込の時に右の定価をお願いいたします。

○ 従来、年に数回、五百円、千円と送って下さる方が多くあり、その人たちにまだ前金が残っていますと申上げて、相変らず送り続けて下さる方があります、有難うございます。

○ 同志たちの中には、毎月千円、二千元、三千元と払込んで下さる方たちも数名あり、また時々五千円、一万円と払込んで下さる方もあります。有難うございます。

○ こうした方たちに対しては、定価改正は別に意味は

ないでしょうが、郵送料の値上げなどの影響で、苦しくなっていますので今回思い切って改正することにしました。

○ もともと、アナキズムの立場を守り続けるもので、店頭で売れるようなものではありませんから、少しでも出血を少なくして、微力な私がカバーして行くために、小さなものとして続けています。存在を確保するために小さくても永続させねばならないと思っております。

○ 経理面は創刊以来キチンとしています。私自身生活のために働いていますので時間的に恵まれず、編集は同志たちがやってくれ、発送にも同志たちが応援してくれています、印刷所にも迷惑をかけています。こうした同志たちの献身的な努力でリベルテールは毎月出ているのですが、事務的な面では手がまわらず、一回の払込みですでに前金切れになつても発送を続けているものがあります。機を見ては整理します。こうしたことでリベルテールが行かなくなつたら、引き続き購読希望の方は、どうかお払込み下さい。

○ 払込は、振替東京四一三三三〇 三浦精一